入浴介護を推進し、在宅福祉で家庭と地域に笑顔を！

入浴福祉新聞

編集発行所●デベロ老人福祉研究所、日本入浴福祉研究会事務局、株式会社デベロ
〒310-0841 水戸市酒門町一七四四・二　TEL〇二九・二四七・二二一一(代)　FAX〇二九・二四七・二二一四
編集発行協力●デベロテクノ(株)　TEL〇二九・二四八・二五〇一　FAX〇二九・二四八・三六六四
(株)プランナーズデベロ　TEL〇二九・二四七・二二一一　FAX〇二九・二四七・二二一四

第152号
2023年・夏号
令和5年7月15日(土)発行
ホームページ http://www.develo-group.co.jp
発行人：梅澤　秀樹

第五十九回 全国入浴福祉研修会
令和五年三月十七日(金) オンラインにて開催

「これまでの生活を考えて、これからの人生を支えていく」～自立を支援するために何をすべきか、何ができるか～をテーマに令和五年三月十七日(金)デベロ老人福祉研究所が主催する第五十九回全国入浴福祉研修会をオンラインにて開催いたしました。受講いただいた方々とは直接お会いすることはできませんでしたが、オンラインの利点から全国各地より約二〇〇名の受講をいただきました。

開催にあたり主催者を代表して株式会社デベロ・専務取締役の浅野由美より、「介護事業においては、まだまだ感染症対策が続く中で、日々介護サービスの業務を進めている皆様へ感謝を申し上げます。また、自然災害等が多発する昨今において、BCP策定など急を要する課題もありますが、お風呂を待つ方々に、皆様が安心して入浴サービスをお届けするためにも、本研修会を通して地域の医療・介護・福祉を考えていく機会としてください」と挨拶をさせていただきました。

●基調講演●

基調講演は、医療法人社団いばらき会・いばらき診療所理事長の照沼秀也医師より「自分の家で生きるということ、自分の家で死ぬということ」と題してご講演いただきました。照沼医師は、浜松医科大学付属病院第二外科勤務、国立東静病院外科勤務、駿河西病院副院長、平成八年三月いばらき診療所開設、平成一〇年四月に医療法人社団いばらき会を設立、同法人理事長として現在に至ります。また、日本慢性期医療協会の理事を務めるなど多方面でご活躍されています。

照沼医師のZOOM講演

照沼医師は、介護保険施行以前より在宅医療を始められ、これまでに多くの方の最期を看取って来られました。(医療法人社団いばらき会全体では年間二〇〇～三〇〇人の在宅患者の看取りを実施)。現在に至るまで、法的な整備の問題や医療と介護の連携に係る課題などと向き合いながら奮闘されてきました。一人ひとりの患者さんができるだけ痛みや苦しみを感じることなく、ご家族や大切なものに囲まれて時間を過ごし、最期の瞬間まで「この地域に生きてきてよかった」と思えるようなケア・サポートをしたいと、たくさんのエピソードを交えながらのお話は、先生の熱意が伝わるご講演でした。

また、訪問入浴介護に携わる方々との折角の機会だからといことで、たくさんの質疑応答にお答えいただきました。(詳細は一面下段をご参照ください)。

●行政説明●

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課基準第一係長山崎竜平氏より「行政説明」をいただきました。令和三年度の報酬改定後から約一年経過の様子や、今後の介護保険の取り巻く状況と、訪問入浴介護の近況などの解説をいただきました。改めて、介護事業者として準備すべきことや、介護人材の問題、少子高齢化などそれぞれの地域の課題に向けて、制度設計をもとに検討する機会となりました。

山崎氏のZOOM講演

●調査研究事業報告●

デベロ老人福祉研究所で実施した令和四年度厚生労働省老人保健健康増進等事業による「看取り期等における訪問入浴介護のサービス提供の在り方に関する調査研究事業」の報告を同研究所・所長植田有司より行いました。全国の訪問入浴介護事業所より回答をいただいたアンケート結果の速報と、(看護)小規模多機能型居宅介護事業所よりいただいた「看取り期にあるご利用者への入浴ケアの状況」に関してのアンケート結果など、「包括報酬体系の介護サービスとの連携による入浴支援のあり方」についても報告をいたしました。

閉会挨拶として株式会社デベロ取締役統括営業本部長の梅澤秀樹より、「介護需要の高まりの中で、生産年齢人口が減少していく現在、介護に従事されている方や、これから就労を希望される方々に対して、十分な体調やメンタルヘルスの体制の構築や就労環境を整備し、更なる生産性の向上等の取り組みが必要とされます。本研修会を機に、介護保険制度の方向性や、お住まいの地域における医療や訪問入浴介護の在り方についてなどを振り返っていただき、皆様の活動にお役立ていただきたい」と挨拶させていただきました。

第五十九回全国入浴福祉研修会や調査研究事業の詳細につきましては、デベロのホームページをご覧ください。
http://www.debelo-group.co.jp/

第五十九回 全国入浴福祉研修会 トピックス

基調講演の照沼先生より、ご講演のほかに、皆様の質問に関する返答や、在宅医から見た在宅医療・介護の実践における「大事なこと」についてお話をいただきましたのでご紹介します。

質問　訪問入浴介護のサービス提供現場において、「医療ケアを伴うご利用者」として、主に以下のケースが挙げられました。

①褥瘡処理
②点滴管理
③喀痰吸引
④人工呼吸器管理(気管切開)
⑤排便コントロール(摘便)
⑥CV管理
⑦ストーマ(人工肛門)の処置
⑧傷(裂傷)の処置
⑨血糖コントロール(インシュリン投与)
⑩膀胱留置バルーンカテーテル
⑪胃瘻
⑫在宅酸素療法

どのケースも簡単ということはないのですが、照沼先生の視点から、入浴介助を行うことを前提として考えた時に、どの疾患(もしくはケース)に注意すべきでしょうか?アドバイス等をいただければと思います。

【回答】

ここに挙げてある患者さんは全員、訪問入浴介護が大事です。まず最初に気を付けていただきたい点があります。それは脱水と電解質異常です。こういう症状は、訪問入浴中に気を失う恐れがあります。脱水や電解質が少なくなる方は、心不全の治療をしている方が多いです。私の場合、心不全の情報は事前にいただき訪問入浴とも共有しています。心不全の薬を処方されている方、利尿作用のあるラシックス、アルダクトン、エンレスト、アーニー等を飲まれている方は脱水傾向にあるので注意が必要です。

もう一つは、ARBという降圧剤です。血圧の薬でアジルバ、バルサルタン、この患者さんの中に時々、副作用でナトリウムが少なくなる方がいて、脱水を起こします。知らずに入浴させてしまうと意識が亡くなったり、一過性の脳虚血発作(TIA)を起こすことがあります。そういう患者さんには注意が必要です。訪問入浴の利用者で医師から情報を得る内容としては、心不全の治療をしていますか、利尿剤を使用していますか、という点が大切です。

またARB(アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬)を飲まれている患者さんは、血液中のナトリウム濃度が低いといった、低ナトリウム血漿があるかどうかを必ずチェックしてください。このような方は、入浴時に注意が必要です。確認しないと意識を失う恐れがあります。

それではご質問の症状別にお話ししますと、

①褥瘡のある方はどんどん入浴させてください。褥瘡の中もきれいに洗っていただいて結構です。清潔が一番です。

②点滴管理の方については、脱水の心配はありませんが、点滴の量が一日五〇〇cc位でほとんど口から入らない患者さんについては脱水になっている可能性がありますので入浴時は気をつけてください。つまり「脱水」に気を付けるということです。

③吸引を行っている患者さんも入浴は全く問題ありません。入浴

(二面につづく)

前照灯

▼今年の日本人の人口動態統計では、一人の女性が生涯に出産する子供の人数を示す「合計特殊出生率」は七年連続で低下し一・二六で過去最低を記録しました。▼人口減少は、将来の担い手である未来の成人が不足することを意味しています。稼ぎ手が減少することは日本という国の収入が減り、持ち金がなくなる。その結果、国の価値評価も下がってしまうことを意味します。▼その一方で鹿児島県伊仙町、岡山県奈義町、京都府福知山市など合計特殊出生率が人口維持の二・一を超えたり高水準を維持する市町村が存在します。伊仙町は「生まれた子は地域みんなで見守り育てていく」という地域ぐるみで子育て支援を行うことが当たり前の精神文化があり、諸島部や山村など住民の結束力の高い地域には同様の傾向があります。▼奈義町は公共事業費の大幅カットで生み出した公金を「子育てと教育のために使う」と決め、住宅支援や金銭サポートの他に、主に子育てをしながら「ちょっとだけ」働きたい人と「ちょっとだけ」手伝ってほしい事業者をマッチングする就労支援策「しごとコンビニ」として運営。子育て世代を中心に安定的に仕事依頼が入る仕組みを確立。高齢者福祉の予算規模はそのままで子育て定住者の増加を成功させています。▼福知山市は、親との近居、市内での就業率が高く、保育所や子育て支援が整備されています。北近畿の中心都市として多くのチェーン店が進出し、就業場所が比較的近く、子育てサポートが豊富で、三人目が生れてもなんとかなる。という状況がそろっていることが要因のようです。▼現代の多様な価値観の中にあっても、子供を育みやすい環境を社会全体を見渡して模索し、さらに拡大することが高齢者福祉にもつながる事でしょう。

により身体を動かすことで刺激となり痰が上がってきます。痰が上がってきたらご家族に近くにいてもらい、痰の吸引をしてもらってください。

④人工呼吸も同じです。身体を動かして入浴することはとても良いことです。

⑤排便コントロールの患者さんは基本的に脱水している方が多いです。脱水で良くないことは腸が乾くことです。腸の粘膜は脱水に弱いです。高齢になると生理的脱水といい、だんだん腸の粘膜が乾いてくるため、便が動かなくなり便秘となり摘便につながります。摘便しているということは生理的脱水があると考えてよいでしょう。脱水によりふらふらすることもあるののので、入浴中は声掛けを万全にしていくことが大切です。

⑥ＣＶ管理の患者さんは全く心配ありません。点滴で水分が入っていますので問題ありません。

⑦ストーマの処置も全く問題ありませんのでどんどん入浴させて洗ってあげてください。人工肛門のアタッチメントは以前のものと比べて良くなっていますので、漏れることはありません。またにおいが外にもれる心配もありません。

⑧傷、裂創ですが、高齢者は皮膚が弱いので、びりっとはがれてびらん状になってしまうことがあります。入浴中にびらんを作ってしまうことがありますが、その時は水シャワーで傷を洗い、皮膚を寄せ、できればテープで止めておいてください。その後は医師や訪問看護に診てもらうようにしましょう。

⑨血糖コントロール、インシュリン投与の患者さんは時々低血糖発作を起こすことがあります。インシュリンの量が不適切な場合もあります。ヘモグロビンA1cの数値を見ると、数値がギリギリ低い方が多いのです。コントロールされすぎの方もいます。高齢で在宅介護の患者さんであれば、在宅診療医の立場からみると血糖値は若干高めのほうがうれしいです。そうすることで低血糖が起きることはありません。

⑩膀胱カテーテルも入浴することに問題はありません。膀胱のカテーテルから膀胱にばい菌が入る心配もありません。最初に尿道口をシャワーで洗い、最後にまたシャワーで流してください。消毒薬よりも水が一番良いのです。刺激がないうえ細菌を殺す能力もあります。水は浸透圧が低いからです。たくさん水（シャワー）をかけることで細菌は死んでしまいます。

⑪胃瘻の患者さんもどんどん入浴させてください。

⑫在宅酸素療法の患者さんは時々入浴により呼吸が荒くなることがあります。身体が温まると軽いジョギングをしているような状態になるからです。酸素消費量が増えますので、その時はサチュレーションが下がっているので、酸素を一時的に○・五～一程度上げ、入浴が終了しましたらまた元に戻してもらうことが可能です。

いばらき会がある茨城県内でも、市街地もあれば下町風情のあるところ、農村地帯と地域は様々です。高齢者の方々の現役時代と比べれば、商店や企業なども人口減少等の波を受けて大きく様変わりをしました。決して暮らしやすい環境ではない中であっても、愛着のある土地、家、家族、地域の中で生活が送れることはひとの尊厳を維持する上でもっとも基本的な要件と考えます。今まで慣れ親しんできた生活の場を奪わず、可能な限り自分らしい人生を維持することを支援することがまず重要です。そして、在宅医療・介護で重要なのは、その方は在宅でどのように過ごしたいのか？家族はどのように支えたいのか？このことを「さりげなく、でも、しっかりと把握すること」こうしたことを一番大事にして、その方や地域を支えていかなくてはならないでしょう。

毎日、地域を駆け回りお忙しい中にも関わらず、講演の他、たくさんのアドバイスをいただきました。照沼先生ありがとうございました。

コーチング思考の活用㉘

「いつも」の言葉使い

人を批評するときに何気なく、「あの人はいつも間違えるよね」などと言ってしまうことがあります。「いつも」という言葉は、「全て」や「一〇〇％」という意味合いを含むものです。感謝や誉め言葉で、「いつもありがとう」・「いつも偉いね」であれば、日頃からそのように思っているのだという気持ちを伝えるのに適していますが、評価や注意をするときの使い方には要注意です。

あなたにその気がなくとも、「いつもダメだよね」は、「全部ダメ」と感じ取られてしまうこともあります。全否定は、その人の人格まで否定された気分にしてしまうこともあるでしょう。

「ときどき」の伝え方

「いつも」「すべて」などと言ってしまうと話が終わってしまいます。相手を正しい方に導きたいのならば、「ときどき○○なことがあるね」といった伝え方であれば、ダメな部分もあるが、「いい部分もある」となりますので、相手の答えを自発的に引き出す糸口がみつかりやすくなります。「いつも○○」は口癖になっているかもしれませんので、相手を評価する場合は気配りが求められます。

（植田）

デベログループ役員改選のご報告

デベログループでは令和五年五月三十一日に役員改選が行われ、代表取締役社長　浅野芳生が取締役会長へ、後任として、専務取締役　浅野由美が代表取締役社長へと就任いたしました。また、他の役員につきましては継続となります。新任として、デベロテクノ株式会社　執行役員工場長（部長）として飯村司が就任しましたので併せてご報告させていただきます。

就任のご挨拶

デベログループ
㈱デベロ
デベロテクノ㈱
㈱プランナーズデベロ

代表取締役社長
浅野由美

この度令和五年五月三十一日の役員改選により、代表取締役社長に就任いたしました浅野由美でございます。尚、前任の浅野芳生につきましては、取締役会長に就任いたしております。また、デベロテクノ株式会社において新任執行役員を選出し、デベログループは新体制でスタートいたします。

デベロは一九七〇年に創業し、一九七二年に世界で初めて移動入浴車を世の中に送り出した会社です。まだまだ、民間事業者が福祉産業に参入することは珍しい時代でしたが、お風呂に入ることをすっかり諦めていた方々に再び入浴の喜びを感じていただけるよう邁進してきたことが、現在のデベログループ理念の根幹にあります。

現在、来年度の介護保険制度改正に向けて活発な議論が交わされております。訪問入浴介護においては、重度の要介護状態の方や、看取り期等にある方の「在宅療療を支える必要不可欠な介護サービス」として、今後さらに期待されることが予想されます。一方で、医療依存度が高いご利用者が多い訪問入浴介護の場合、ご利用者お一人おひとりに合わせたサービス提供がより重要なことから、日々ご利用者の身体的状況等をふまえてサービス提供をなさっていることと思います。

私共は、新型コロナウイルス感染症の流行時、様々な制限がある中でも、「サービス提供を止めるわけにはいかない」という「思い」で事業を継続される皆様のお姿に、大きな勇気をいただきました。また、「訪問入浴は普段から感染症対策を励行しているので、大きな混乱もなく対策に取り組めた」とのお声をいただいた時は、安堵するとともに、このサービスをとても「誇らしく」感じました。

デベロは、皆様のこの様な「思い」「頑張り」「誇り」に支えられ、入浴福祉を推進してまいりました。これからもその信念を忘れることなく歩んで参ります。皆様におかれましては、今後ともお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

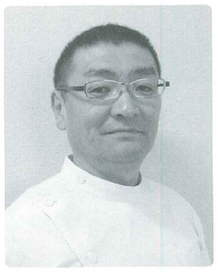
デベロテクノ株式会社

執行役員工場長（部長）
飯村　司

この度デベロテクノ株式会社執行役員工場長に就任いたしました飯村司です。平素より弊社製品をお使いいただき誠にありがとうございます。移動入浴車は皆様の思いを実現するツールだと思っております。安心安全な製品づくりは勿論ですが、さらに皆様にとって便利で機能的な製品になるように、引き続き皆様の思いをかたちにして参ります。今後ともご支援、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

高橋ドクターのちょっと豆知識

医療法人千甫会高橋外科医院院長
高橋　亨



前回は、日本人の主な「死因」について触れ、「老衰死」についてもお話させていただきましたので、今回、老衰の経過について触れたいと思います。

「老衰死」とは、加齢に伴う様々な心身の衰弱によって自然に亡くなることで、「老衰」とは、加齢が原因で徐々に心身の機能が衰えていく状態と前回述べました。では、老衰死に至る具体的な経過はどのような状態でしょう。「死」には苦しみが伴うイメージがありますが、実は老衰死による最期は、大きな痛みがあったり苦しんだりすることはほとんどありません。しかし、身体全体の機能低下によって、さまざまな兆候が見られます。

体重減少のはじまり

見た目にもわかりやすい変化として、筋肉の萎縮から「筋力が低下」することです。筋力が弱くなると転びやすくなりますし、ちょっとの移動や作業でも疲れやすく、行動範囲も狭くなっていきます。

また、臓器の萎縮によって「消化器官の機能が低下」します。消化器官の機能が低下すれば、それまでの食事摂取量では、栄養を十分に吸収できなくなります。結果として、体重を維持できず急激に痩せ始めます。

食事量減少でさらに痩せていく

筋肉や臓器の萎縮が進行すると、それまでの食事量を取ることが難しくなります。栄養吸収の低下に加え、食事量の減少によって、体重はさらに減っていきます。また、体重減少によって体力低下も進行し、嚥下障害や消化管の蠕動（ぜんどう）障害も出てきますので、食べ物を細かく刻んだり、ペースト状にするなどの工夫が必要になります。状況によっては、高栄養の介護食にするなど検討が必要となります。

睡眠時間が増える

老衰が進行すると、昼夜問わず眠る時間が増えるでしょう。「脳機能の低下」によって意識を保つのが難しくなるからです。徐々に一日中眠っている時間が増えていきます。当然、眠っている間は、口から栄養や水分を摂取することができませんので、状況に応じた対症療法やターミナルケアの検討が必要となります。

脳機能の低下によって、幻覚や幻聴といった「せん妄」症状が出る場合もあります。また、話しかけても反応がない、話しの途中で眠ってしまうなど意識がぼんやりした状態がずっとつづくこともあります。

下顎（かが）呼吸になる

旅立ちの時が近くなると、下顎呼吸が始まります。肺ではなく、顎を下げてがくがくと動かしながら空気を吸うような呼吸です。普段の呼吸と違うために驚いてしまうかもしれませんが、この場合、体内の二酸化炭素が増えるために意識はなく、苦しさを感じていないと考えます。ただし安易に判断せずに、不安な場合はすぐに医師に相談しましょう。

さらに時間が経つと、手足が冷えたり紫色になったりします。心臓の力や全体の循環機能が衰えることで四肢抹消まで熱やエネルギーが届かなくなります。このときには呼吸の変化・尿量が少なくなる・のどがゴロゴロと鳴る症状も合せて生じたりします。

何かしらの病気ならば、適切に治療すれば治ることもありますが、臓器や筋肉の状態が低下している場合では治療によるリスクの方が大きく、できることは、穏やかな最期を迎えられるよう、旅立ちのお手伝いをすることです。老衰死までの経過を理解しておくことで、最期を看取るにあたって、慌てたり、急な不安に襲われたりせずに、後悔しないお別れをすることが出来るのではないでしょうか。

コラム Vol.30

地域でイキイキ暮らせる福祉社会を創ろう

訪問入浴サービスでは、ご利用者の心理面（羞恥心等）に最大限配慮した上でサービス提供が行われています。女性のご利用者が男性の介助を嫌がる場合、頭側（洗髪槽側）で介助していただくことで、ご利用者の視界に入らなくなります。また全体を見渡せる位置でもあることから、洗髪・洗身、入浴中であっても、ご利用者の顔色や様態の変化に気づきやすいという利点があります。同性介助や心理面への配慮には、私自身も明確な答えはなかなか見つかりません。そこで、過去の資料をひもといてみました。

今回は、樋口恵子先生（元東京家政大学教授）が、1994年（平成6年）10月6・7日開催の第29回全国入浴福祉研修会（愛知県名古屋教室）にて、「高齢化時代の家族と地域の役割～半径1km圏内でイキイキと暮らせる福祉を～」と題し、ご講演いただいた内容から抜粋してご紹介させていただきます。

「高齢者は広範な移動はできないため、自分の住む地域でイキイキと暮らせるようにしなければならない。しかし、子供のお世話を受けるため、歳をとってから同居する“呼び寄せ老人”は、方言の違いはあるし、言葉の受け止め方や地域の雰囲気も異なる。そうしたご利用者と出会ったならば、この点を気に留めながら、温かく地域に迎え入れるような接し方をしてほしい。また、同居できるから幸せ、施設入居や一人で暮らすのは不幸せ、と決めてかかるのではなく、離れて暮らしていても、「家族だなぁ」と思えるように支えるのが介護福祉の専門家をはじめ、周囲の役割ではないだろうか。ご利用者は歳をとっても羞恥心はあるし、更衣室で着替えをしたいと願っている。他にもいろいろな要望があるはずで、福祉の供給側は相手の気持ちになって素直に聞き、受け手と供給側にある深くて暗い河を埋めてほしい。」とのメッセージ。入浴介助のヒントとなる言葉です。

（佐藤）

地方創生シリーズ⑱

町の活性化に期待「自動運転バスの運行」

茨城県南西部にある境町。お隣の千葉県とは利根川をはさんで北側に面しています。人口約二万四千人。近年、町の真ん中に高速道路が通るようになりましたが、鉄道駅はありません。そのような境町ですが、国内の自治体で初となる「自動運転バスの社会実装」の取り組みが続いています。待ったなしの高齢化と人口減少等から起きる「交通インフラの課題」に向けた先駆的な試みです。

車両はフランスの、ナビヤ社製の電気自動車「ナビヤ　アルマ」。レベル4（自動運転には0～5までのレベルがあり、レベル5が完全運転自動化、レベル4は高度運転自動化で、限定された条件下において、システムが全ての運転操作を実施する・ドライバーが運転席を離れることができる）に該当し、自立走行が可能です。

ただし現時点では、自動運転バスには同乗スタッフが一名おり、道路沿いの駐車車両や信号のない交差点など、一部は手動に切り替えて運行しています。完全に自動運転とはなりませんが将来的には同乗者もなくし、遠隔監視だけの運行を目指しているそうです。

運賃無料で町内を巡回するこのバスですが、将来的には一定の収益化も検討されています。地方の路線バスは九割くらいが赤字です。運賃収入だけで賄うには利用者が少なく、なかなか難しい状況です。そこで、訪問先の施設からの収益を目指しています。自動運転バスによって今まで移動できなかった人が活発に動き、訪問先では消費活動を行いますので、訪問先から収益を得ることができるのではないかと検討しているとのことです。こうしたことは、すでに自前で運転手を雇い送迎を行っていた医療施設や商業施設からすればありがたい話です。また、立地の悪い施設にとっては、人を呼び込めるチャンスにつながりますし、町の活性化にも期待ができます。

今年中にはエストニア製の新しい自動運転車両をコミュニティバスとして追加導入を予定するなど、境町の取り組みは全国市町村からの注目の的になっています。

道の駅さかいのバス停留所にて

そうだったのか　日本の社会保障⑯

第十六回目の『そうだったのか　日本の社会保障』は、骨太の方針二〇二三に盛り込まれた「医療・介護の人材紹介事業の適正化」について考えてみます。

《「骨太の方針二〇二三」で取り上げられた「人材紹介会社の規制強化」》

二〇二四年度介護保険制度改正まで一年を切った二〇二三年六月七日、岸田首相を議長とする経済財政諮問会議が開催され「骨太の方針二〇二三」骨子案が示されました。同骨子案には岸田政権の看板政策である「新しい資本主義」の実現に向けて様々な経済政策が盛り込まれていることが話題となっていますが、社会保障分野については「医療・介護等の不断の改革を行い、保険料負担の上昇を抑制することが極めて重要」と厳しい記載がある反面、自己負担二割となる高齢者の対象拡大については実質先送りされるなど「必要な対応にとどまった」と評する向きもあります。

今回、そのような「骨太の方針二〇二三」骨子案の中で示されている「人材紹介会社の規制強化」について注目して皆様と共に学んでまいりたいと思います。

《経営を圧迫する「人材紹介手数料」と高い離職率》

「人材紹介会社の規制強化」の問題の根幹には現在も続く介護業界の人材不足がありますので、まずは現況について認識していきましょう。令和五年四月二十八日発表の一般職業紹介状況（令和四年度分・厚生労働省職業安定局雇用政策課）を見ますと、有効求人倍率は全体で一・二二倍であることに対し、介護サービス職業従事者は三・四四倍。年間の有効求人二十万三千七百八十八人に対し、就職件数は六千二百四十件とわずか、三・〇六％しか充足できていないことが分かります。

このような深刻な介護人材不足の中で各介護事業所様が独自で採用活動を行っていくことにも限界があり、人材紹介会社を頼らざるを得ない状況となっていますが、ここで問題となっているのが人材紹介会社に支払う紹介手数料が高額化している事、更には人材紹介が必ずしも安定的な職員の確保にはつながっていないという事です。

通常、人材紹介会社の紹介手数料は対象者の想定年収の二十五～三十五％が相場と言われていますが、現行、介護職員一人の紹介料として五〇～百万円支払った事例などの一部報道があり、更には人材紹介会社経由の介護従事者の方の離職率が高いこともアンケート調査から示されています。

《規制の徹底と手数料水準の設定、更には公的人材紹介の強化を》

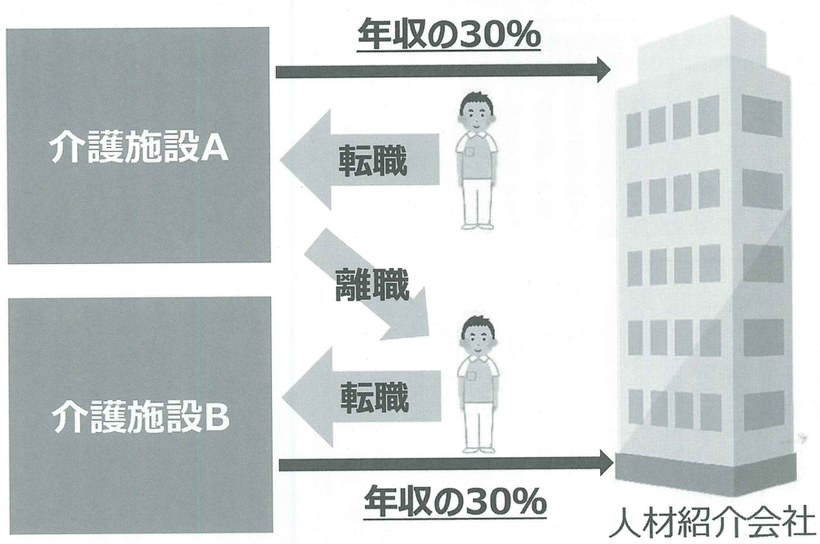
政府としても現在の状況を強く課題認識されており、介護職員の方々の給与は公費（税金）と保険料を財源としており、高額な人材紹介手数料などは本来は職員の処遇改善に充てられるべきものとして、介護事業者向けの人材紹介会社へは本人の「就職お祝い金」の禁止などの現行規制の徹底や手数料水準の設定などを行うとし、また、ハローワークや都道府県等を介した公的人材紹介の強化などの方針が打ち出されました。

先駆けて、既に令和三年には厚生労働省創設の「医療・介護・保育分野における適正な有料職業紹介事業者の認定制度」が走り始めており、法令順守を含めた必須基準と就業のミスマッチに配慮した基本基準を満たした、介護分野の人材紹介会社が二十一法人認定（令和五年六月十五日現在）されています。

今後様々な施策が打ち出されていくだろう「医療・介護の人材紹介事業の適正化」については、常に情報収集を続け、皆様に有益となる情報の発信をしてまいりたいと考えておりますので、ご不明な点等ございましたらぜひデベロ老人福祉研究所へお問合せ下さい。微力ながら今後も皆様のお力になれれば幸いです。

（吉）

◆人材紹介会社を介した転職の例



◆介護従事者の離職率

	人材紹介会社経由		人材紹介会社以外	
	3か月以内	6か月以内	3か月以内	6か月以内
介護職員	28.2%	38.5%	17.9%	25.6%
看護職員	21.3%	32.5%	12.4%	22.3%

※全産業の離職率：13.9%

（出所）厚生労働省「医療・介護分野における職業紹介事業に関するアンケート調査（2019年12月）」
厚生労働省「令和３年度雇用動向調査結果」

出典：財務省　財政制度等審議会（令和５年５月29日開催）
「歴史的転機における財政　参考資料　資料㈥-3-1」より一部抜粋

★私のイマジネーション★
物流の二〇二四年問題

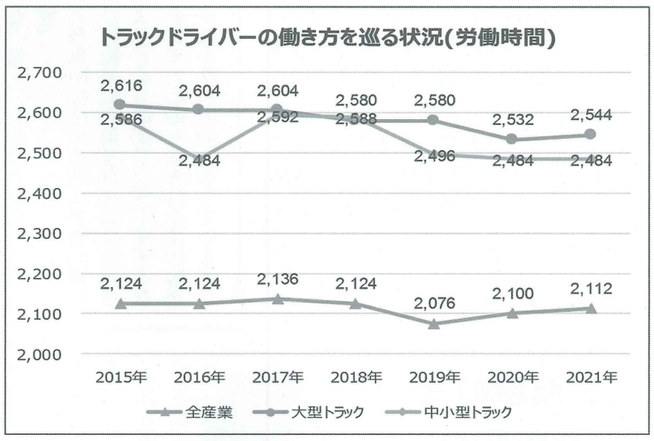
先日、弊社でお取引いただいている運送会社の担当者から、六月より一部地域間における荷物の配達にかかる日数がこれまでより長くなる、というご案内がありました。”社会や地域のお客さまのニーズ・ご要望に今後も安定した品質でお応えし続けるため“とのことで、恐らく「物流の二〇二四年問題」に向けた対策の一つだと思われます。

「物流の二〇二四年問題」は、二〇二四年四月より、働き方改革関連法に基づき自動車運送事業（トラック・バス・タクシー事業）において時間外労働時間の上限規制（年九六〇時間）等が適用されることによって、物流業界に起きるとされる諸問題のことです。ちなみに、二〇二四年三月三十一日までは、労使協定を結べば時間外労働時間の上限に制限がありません。規制が適用されれば、一見、ドライバーにとって働きやすくなるように思えるのですが、時間外労働＝収入減となり、ドライバー不足に拍車がかかる可能性があるそうです。また、例えそうならなくても、ドライバー一人あたりの労働時間減＝輸送能力低下となるため、物流がますます滞ってしまうそうです。公益社団法人全日本トラック協会のホームページには、何も対策を行わなかった場合、二〇三〇年には営業用トラックの輸送量のうち約三十五％が運べなくなることも…とされています。

上限規制となる年九六〇時間の時間外労働は、仮に一か月の勤務日数を二〇日とすると、一日あたりで四時間になります。それでも十分長時間労働だと思いますが、現時点で上限がないということは、それを遥かに超えた長時間労働をされているドライバーはかなり多いのだと思います。注文した商品もしくは発送した荷物を、翌日、遅くても翌々日に届けていただけることをこれまで当たり前のように感じていました。しかし今回この問題を調べていく中で”当たり前“に感じていた便利さは、多くのドライバーが、長時間労働をしてくださっているおかげであることを、あらためて思い知らされました。

冒頭に紹介した運送会社のように、サービスの質を落とすことでこの問題への対策を行っているのが、郵便だと思います。既に普通扱いの郵便は、二〇二一年一〇月一日からお届け日数が繰り下げになり、また、土曜日の配達が休止となっています。仕事の場面でも私的な場面でも、普通郵便を投函する場合は以前と比べてかなり早めに対応しなければならなくなりました。速達等のオプションを付けたり、レターパックを利用したりすれば、届け先によっては翌日に届けていただくことができます。しかし、もちろんその分費用がかかるようになりました。

高いサービスを求めるのであれば、然るべき費用を負担する。費用負担ができないけれど、決まった期日までに届けてもらいたいのであれば、余裕を持って対応する。今後、モノを運んでいただく場合、送り主側も更なる工夫が必要になることは確実です。そして、届けていただく場合でも、確実に受け取れるような対応が大切ではないでしょうか。（片岡）



出典：第１回持続可能な物流の実現に向けた検討会（令和４年９月２日）資料２
（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より）

ぬちぐすい（命薬）のおすそわけ　第五回
「寒暖差からくる不調の怖さ」

この季節のお悩みといえば、「寒暖差」気温の急な変化に体がついていくことができず、体にいろいろな症状が出てくることで心理的にもかなりストレスになることが多い季節ですよね。

体に及ぼす影響としては、気温の急激な変化によって免疫系の働きが弱まり、風邪やインフルエンザなどの感染症にもかかりやすくなることもあるようです。

私自身も先日、気温が下がった事に対応できず、体がすごく冷えてしまい急に片頭痛、めまい、肩こりの症状が出てきたことに対応できず辛い時がありました。痛い事もストレスですが、急な症状に対応できない事へもすごくストレスを感じました。

私たちの体は、環境の変化や気温の変化などにも適応できる能力が備わっています。寒いと血管が収縮して血液の流れが制限され、暖かいと血管が拡張し血液の流れが増えます。

その結果、寒暖差が大きい季節は頭痛やめまいを引き起こしたり、関節や筋肉の痛み、疲労感などの症状がでやすくなります。

体に不調が出れば、心も不調になります。寒暖差からくる不調はとても怖いものです。

そこで個人的に考える寒暖差との付き合い方ですが、血管収縮を緩やかにしてあげることを意識してみてはどうでしょうか？

羽織るもので体温調節をして、冷たい飲み物は控え、体を冷やさないことを心がける。そして、適度に体を動かし、入浴で体を温めてあげましょう。

必ずくる季節の変わり目、寒暖差からくる不調でストレスを感じないためにも、少しの心がけを意識して快適に過ごしたいですね。

リンパサロン
月の桃
salon & school
代表
安部 美和
リンパセラピスト
リンパドレナージュ専門サロン＆スクール
茨城県水戸市
https://tsukino-momo.amebaownd.com/

お風呂にまつわるあれこれ
吹く風の中を魚飛ぶ御祓かな
桃青（芭蕉）

季語は「御祓」で夏。陰暦六月晦日、身の穢れを祓うことを言います。「名越の祓」ともいい、川で御祓いをすること。「川祓」ともいいます。「御祓川」は、御祓をする川であり、その川での出来事を謳ったもので「川の水で御祓をしていると、涼しい川風が起こって、その中に魚が跳ね上がる。身のひきしまる御祓であるが、なかなか楽しい感じがする」という内容です。

真夏の暑さにはまだまだいかないけれど、さわやかな初夏の陽光に川の祓も苦にならない情景が浮かびます。お風呂ならずとも川の水の清らかさに増して、心を洗い日々を楽しむ気持ちに習いたいものです。

今年も豪雨と熱波がやって来そうです。常に万全の備えをしていただければと思います。（植田）

編集後記

■５月８日から新型コロナ感染症が「５類」へ移行。コロナ感染者を全例登録したり、行動制限を課すわけではなくなったので、どんどん検査をして拾い上げることまではしなくなりました。しかし、他の疾患に該当する決め手の症状が乏しく、急性上気道炎や肺炎を起こしている場合、原因確認のため、新型コロナウイルスの存在を確認する検査を行うことが当然あります。同じく５類のインフルエンザウイルスを特定し効果のある薬剤の処方もありえます。受診が義務的な空気が醸成されたままなので受診はしたけれど、有料になったから検査までは積極的にしてほしくない、という曖昧な状況が存在し、なかには上気道炎での解熱剤の処方さえ拒否され、結果的に診断にかかる受診料の支払いに抵抗感をもつ患者さんの存在もあり医療現場では多少なりとも混乱しています。いずれにしても、他の人にうつさないように生活するというのが重要です。■今年は季節外れの暑さや戻り低温でいつになく長袖をしまえない状況が続いています。そのせいか夜中にふくらはぎやすねが「つる」ことがあります。このつるという現象ですが「筋肉が固くなることと、血流が悪くなること」に起因し、具体的には、①加齢②運動不足③運動のし過ぎ④冷え⑤水分やビタミン・ミネラルの不足などが主な原因とされています。少し詳しく説明しますと①35歳を超えると加齢により筋肉への指令メカニズムが異常を起こすため症状が増えるのだそうです。そのうえ年齢を重ねれば、徐々に筋肉の柔軟性が落ちてきたり、血行不良も起きてきます。②本来、筋肉が収縮する時に異常収縮を起こさないような身体の仕組みがありますが、慢性的に運動不足だと筋肉が弱くなり、うまく作動しなくなります。③運動をし過ぎて足の筋肉が疲れた時、足の神経が常に興奮している状態になってしまうため症状が起こりやすくなります。④筋肉が冷えることで血流が悪くなり神経が過敏になってつりやすくなります。⑤体内には、筋肉の機能を調整するミネラル（特にマグネシウムやカルシウム）がありますが、発汗など水分不足になったりマグネシウムやカルシウムという筋肉に直接関係するミネラルが不足した場合筋肉の調整に異常をきたし症状がでやすくなります。■運動はほどほどに水分や栄養バランスを考えた食事と入浴時につりやすい場所のマッサージを行い、季節に合わせた材質のレッグウオーマーを使ってみましょう。冷房の使用や布団を蹴り飛ばす時期です。ご用心ください。

デベロからのご案内

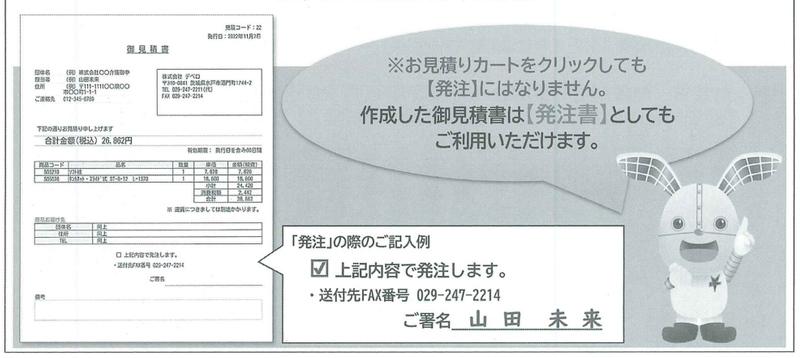
デベロのホームページで見積書・発注書が作成できます！

☆作成手順は4ステップ！

御見積書商品検索・カート入力 ▶ お客様情報入力 ▶ 入力内容のご確認 ▶ 御見積書発行

●デベロのホームページ右上にあります【入浴車用品お見積り】をクリックしてご入室ください。

https://www.develo-pim.com/



※ホームページ随時更新中！アドレスはhttp://www.develo-group.co.jpぜひご覧ください。